

令和2年度 第1回 県立農業大学校 外部評価委員会の実施について

令和2年6月 日

1 令和2年度 外部評価委員

- 三田井 研一 (宮崎県農業協同組合中央会 専務理事)
- 香川 憲一 (宮崎県農業法人経営者協会 会長)
- 黒木 覚市 (宮崎県立農業大学校同窓会 会長)
- 河野 幸子 (株式会社 河野農園)
- 坂本 康子 (農業生産直売所のどかグループ代表 食育ティーチャー)
- 児玉 亜沙美 (Hinataあぐりんぬ)
- 大石 朝寛 (宮崎県SAP会議連合 会長)
- 橋口 幹夫 (川南町役場産業推進課 課長)
- 戸高 久吉 (宮崎県農業経営支援課農業担い手対策室 室長)

2 目標設定に対する委員からの意見聴取について

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第1回外部評価委員会については、関係資料を各委員へ配付し、職員が訪問して意見を聴取する方法で実施した。

また、別途、意見聴取シートによる意見聴取を実施し、集約した意見については各委員へ確認を依頼した。

3 意見聴取スケジュール

- (1) 職員による訪問期間 5月12日(火)から5月18日(月)まで
- (2) 意見聴取シート提出締切 5月22日(金)
- (3) 外部評価委員の意見確認 6月9日(火)から6月19日(金)まで

4 目標設定及び農業大学校教育に対する主な意見

(1) 学生募集について

- 農業大学校に興味を持つ高校生等は、HPやSNSで情報収集することが多いと思う。
- FBは定期的に情報を載せているようであるが、施設や実習の状況等が伝わってくるような情報の出し方が必要と思う。
- 新聞よりもFBやインスタ等、高校生が興味を持っている媒体の方がPR効果は高い。
- 畜産学科の入学生の減少が心配である。
- 10代前半では、その後の進路は未確定な状況が大半であるので、農業系以外の高校に対しても、農業大学校と宮崎県農業の魅力をしっかり伝える仕組みを構築していただきたい。
- 農家子弟から進学したいと思われる教育に期待している。

(2) 教育の質の向上について

- 農業経営には様々な分野の知識が必要となるので、県内の農業関係者のなかで匠の技術を有する方々を講師に招くことで学生に刺激を与え、その講師にも農業大学校との関係性を高めていくことが可能と考える。 ※SAP会員、JA青年部役員、品目別生産部長、農業指導士・・・等々
- 農業法人の幹部になるような人材を育成する教育の実践を期待している。
- 県外の農業研修施設よりも、本県の農業大学校はしっかりしていると実感した。宮崎県立農業大学校へ進学すべきだったと思った。

(3) 進路指導について

- 卒業生がグループ会社をやると卒業生と農大校とのつながりも強くなる。
- 「何となく就農」と考えている学生に、就農を勧める気持ちになれない。農業は厳しい。
- 現場では、挨拶や返事、コミュニケーション能力といった人間力が大事である。事故や失敗をした時の報告がすぐにできるという態度も身に付けさせてほしい。
- 農業法人が新型コロナウイルスの影響を受けて失業した人を雇用しているが、農大生にとっては就職先が少なくなる心配がある。

(4) その他

- 前年度のB評価がA評価となるよう努力してほしい。
- 次世代投資資金は、将来の目標がしっかりしている人にはよい制度であるが、卒業後に学生を雇用する農業法人にとってよくない面もある。しっかりとした将来設計をする中で必要と思う学生が申請すべきと思う。
- 農大校の卒業生で作業速度が遅い社員がいる。本人の特性でもある。
- 近年、農業大学校から採用した社員は新商品開発コンテストで優勝したり、高度なラインを担当する等、積極的である。